

松隈洋

時間の中の建築、建築の中の時間 —前川國男の問いと現代

京都造形芸術大学 通信教育部 建築デザインコース 特別講義 A.L.Series 2013 vol.01

【講義内容】

私たちの時代の生活環境を形づくってきた建築はどこから来たのか。そして、どこへと向かうのか。

建築家・前川國男（1905～1986年）が残した建築と言葉を通して、過去から未来へと続く時間の中で、現代の意味と課題について考えます。

【松隈洋 略歴】

1957年 兵庫県生まれ。

1980年 京都大学工学部建築学科卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。

2000年4月 京都工芸繊維大学助教授に就任。

2008年10月より 京都工芸繊維大学教授。現在に至る。博士（工学、東京大学）。専門は近代建築史、建築設計論。

2000年より DOCOMOMO Japanメンバー。2012年4月より同副代表。

2005年～06年 「生誕100年・前川國男建築展」実行委員会事務局長を務める。

著書に、『ルイス・カーン—構築への意志』（丸善）、『近代建築を記憶する』（建築資料研究社）、『坂倉準三とはだれか』（王国社）、『残すべき建築—モダニズム建築は何を求めたのか』（誠文堂新光社）、

共著に、『再読／日本のモダンアーキテクチャー』（彰国社）、『日本建築様式史』（美術出版社）、『近代日本の作家たち』（学芸出版社）、『関西モダニズム再考』（思文閣出版）、

『原発と建築家』（学芸出版社）、編著に『前川國男—現代との対話』（六耀社）、共編著に、『建築家・前川國男の仕事』（美術出版社）など。

展覧会キュレーションに、「文化遺産としてのモダニズム建築—DOCOMOMO20選」展（神奈川県立近代美術館、2000年）、「同100選」展（松下電工汐留ミュージアム、2005年）があり、

アントニン・レーモンド、坂倉準三、白井晟一、シャルロット・ペリアン、村野藤吾、丹下健三など、多くの建築展の企画にも携わる。東京理科大学、京都造形芸術大学非常勤講師。

5.11(sat) 18:30～20:00(18:00開場)

京都造形芸術大学 NA401教室

定員150名(当日先着順) 入場無料

主催：京都造形芸術大学通信教育部建築デザインコース お問い合わせ：京都造形芸術大学

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2116 Tel. 075-791-9122 (代表) <http://kirara.cvyber.kyoto.art.ac.jp/>

■電車
→叡山電車「茶山駅」より徒歩10分

■バス
→京都市バス(上終町3.5,204系統)
「上終町京都造形芸大前」下車すぐ

※本学には駐車場がありません車での来場はご遠慮下さい。

